

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（9月定例会）
開催日時	令和6年9月20日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：伊尻委員、小野委員、樫出委員、川原議長、河野委員、坂内委員 高橋委員、谷関委員、長谷川委員、米村委員 事務局：吉野社会教育係長、野田主事
議題	(1) 「西東京市教育計画」における社会教育分野について (2) これまでの提言について (3) 提言の目次の検討について
配付資料	
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●議題について

議題（1）「西東京市教育計画」における社会教育分野について

- 事務局：西東京市教育計画を用いて西東京市で取り組んでいる社会教育分野の事業について説明
- 議長：教育DXについて全体的に関係している体系となっている点が西東京市教育計画の特徴でもあると考える。
質問や意見等はあるか。
- 委員：3点質問をしたい。
「基本方針4多様な「学び」と「つながり」を通じた生涯学習の推進にむけて」のうち「生涯学習の推進」という文言がこれまでの計画にはなかった。今回、「生涯学習の推進」という表現が使われた理由について。
「基本方針4方向「学び」を通じた地域づくりの推進」の意味について
「基本方針3方向4施策①小中連携の推進」について、前計画では小中一貫教育の推進であったが、表現が変わった背景について。
- 事務局：教育計画は5年毎に作成するために、時代を取り巻く変化等に応じて新たな文言へ更新しているものであると考えるが、現教育計画に使用されている文言や表現を選択した理由などの詳細については担当課に確認し、次回定例会で回答させていただきたい。

議題（2）これまでの提言について

- 事務局：これまでの提言を受けての対応について参考資料を用いて説明。

- 議長：質問や意見等はあるか。
- 委員：過去の提言を受けての対応や課題を知ることができたので、提言を作成するうえでも参考にしたい。
- 議長：令和5年6月に提言した内容に対して、既に対応している内容があることに驚いた。令和元年6月に提言した「今後の社会教育行政のあり方について」の課題として生涯学習センター機能を統括するコーディネーターの配置がないと説明があったが、社会教育主事の方がその役割を担うであろうという話を聞き、興味深かった。
- 委員：社会教育行政の運営体制について、組織編成に関する話も提言されていたことが驚いた。
- 委員：生涯学習センター機能を統括するコーディネーターの配置がないとあるが、具体的にどのような形のコーディネーターを想定しているのか。
- 事務局：生涯学習のためのセンター機能をシステム化し、運用する役割には多様な知識が必要であることから、スーパーバイザー的な役割を担える人材を想定していた。
- 委員：生涯学習分野におけるハブのような機能が必要であることからコーディネーターの配置について提言内容に入れたように覚えている。
現在の社会教育主事が似たような役割を担っていると考える。
- 委員：平成30年6月に提言された「放課後子供教室事業の今後のあり方について」内の「推進委員会」ができていない理由を知りたい。
また、学習機会全校実施ができた理由についても知りたい。
- 事務局：提言内では他課に跨る委員会を想定していることから、各課業務の調整や人員等の課題により実施できていない。
- 委員：放課後子供教室の学習機会提供ができた理由としては、学習機会提供が未実施の団体に対して、様々な機関に協力いただくことで、実施のハードルを下げる取組があったことも考えられる。

議題（3） 提言の目次の検討について

- 事務局：前回の定例会では目次（案）についてご意見いただき、その後グループ化まで行っていただいた。グループ化した内容と、グループ化する前のキーワードを参考資料として配布しましたので、お目通しいただきたい。目次（案）が固まり次第、執筆分担、執筆要項、「はじめに」の内容確認に進んでいただければと思う。

- 議長：今回の定例会で目次（案）の確定は難しいので、10月で執筆分担を目指したい。
8月定例会での検討内容を踏まえ、「西東京市の現状と課題」は1章「新たな時代の社会教育」に3番目の節として入れたらどうか。
2章「社会教育で学ぶ多様な人々」についてだが、社会教育では、学んでいる人も支える側になり、支える人も支えながら学んでいく。この表現をどのようにすればよいかご意見いただきたい。
- 委員：①学ぶ人、②支える人、③学びの循環とするのはどうか
- 議長：暫定的に①学ぶ人、②支える人、③学びの循環とする。
学ぶ人、支える人の例として他に意見はあるか。
- 委員：子育て中の世代なども挙げられる。
- 委員：「困難に直面している人」をもう少し具体的に挙げて書いてもよいのではないか。
- 委員：「学びの循環」は少し分かりづらいようにも思える。
- 議長：タイトルとしては「困難に直面している人」とし、その中に具体的な例を挙げるのはどうか。
また、「学びの循環」については節にするのではなく、2章の冒頭や補足として記載するのはいかがだろうか。

一同同意

- 議長：次回定例会では目次の検討、特に「はじめに」に入れる内容、「第2章の支える人」の検討、執筆の方向性の確認（テーマを再確認）、執筆分担、執筆要項の確認についてご意見いただきたい。

次回会議

日時 令和6年10月25日（金）午後2時
場所 田無第二庁舎 5階会議室